

イタリア語の基数詞に関する問題点

古 浦 敏 生

§ 1 はじめに

数詞(numerale)には基数詞、序数詞、倍数詞、etc が含まれるが、ここでは、これらすべてについて扱うのは困難なので、基数詞にのみのをしほり、その中の2つの問題を取りあげることにしよう。

まず、イタリア語の1から10までの基数詞を示しておこう。

uno	1	sei	6
due	2	sette	7
tre	3	otto	8
quattro	4	nove	9
cinque	5	dieci	10

§ 2 「2」を示す基数詞の形態

ラテン語では、1から3までの基数詞が語尾変化をしていたのは周知の事実であるが、イタリア語では、今や、語尾変化をするのは1だけになつてしまつた。(uno, un, una, un')。2を示す基数詞はdue である。そして、このdue は、その後続く名詞のgenderによつて形が変わることはない。(尤も、方言によれば、語尾変化をすることもある。)

ところが、1300年代から1500年代までの古いイタリア語では、2を示す基数詞は沢山存在した。Siebzechner-Vivanti, G 「神曲辞典」1954, Firenze (神曲におけるダンテの使用語をまとめたもの)を見ると、due とduo が挙げられている、また、古語の集録で定評のあるZingarelli, N. 「イタリア語辞典」1964, Bolognaによれば、due, duo のほかにdui, duoi も挙げられている。しかし、Migliorini, B. 「イタリア語の歴史」1961, Firenzeによれば、この4つの形以外に、doi, dua, du'も現れるらしい。

さて、これら7つの形の使い分けはどうか？Migliorini, B.によれば、「たいていの作家は、2～3種の形を無差別に、或は、それに続く名詞のgenderに

従つて、或は、それに続く語の語頭音に従つて(母音の前ではdu')、使用している。」と云うことになる。

さらに、『詩人によつて、ある種の傾向が認められる。即ち、ペトラルカ(1304~1374)は、duo を男性名詞の前で、due を女性名詞の前で使用している。eg. duo amanti 「愛し合っている2人」、due rose fresche 「新鮮なバラ2本」。(この使い分けは、ラテン語からの伝統である。即ち、lat. duo は男性形、lat. duae > ital. due は女性形だつたのだから。)また、アリオスト(1474~1533)やタツツ(1544~1595)も、この規則に従っている。しかし、アリオストには例外も認められ、-a に終る複数名詞の前では、dua が用いられている。eg. dua dita 「2本の指」。また、マキヤベリ(1469~1527)のようなフィレンツェ人は、散文では、dua を好み、口語では、duoi を好んだ。』とされている。

しかし、これだけの記述では不十分である。dui, doi については全く触れられていないし(Rohlf's, G. 「イタリア語歴史文法」1954、Bernによれば、dui, doi は、古代トスカナ方言のテキストに現れ、これらの女性形doe も用いられるそうである。)、このほかの作家ではどうなっているのだろうか? だから、基数詞2の使用法については、まだまだ追究の余地が残されていると云わねばなるまい。

なお、due が他の形を圧倒して優勢になつたのは、1600年代に入つてからのことである。なぜ、元来女性形であつたdue が、元来男性形であつたduo を押えたのか? と云う点にも興味を持たれる。

§ 3 uno 「1」 との複合基数詞

uno との複合基数詞とは、eg. venti 「20」+uno > ventuno 「21」, trentuno 「31」, quarantuno 「41」, etc. のことである。なお、これらの語の語末母音-o は省かれることもある。

さて、ここで、例えば「21冊の本」と云う時に、本を単数(libro)にするか? 複数(libri)にするか? と云うことが問題になる。ごく常識的に判断すれば、本の冊数は21なのであるから、複数にすべきだと思われる。

ところが、Migliorini, B. 「国語」1963、Firenzeによれば、『uno との複合基数詞に関しては、一般に、次の例が示されて良い。eg. ventun libro (或は、ventun libri) 「21冊の本」』とされており、単数(libro)の方が優勢な感じの書きぶりになつ

ている。

しかし、前出の Rohlfs, G. によれば、『uno との複合基数詞の後に続く名詞は、たいてい、複数形である。eg. trentuno soldati「31人の兵士」(単数なら soldato), etc まれには単数形も用いられる。eg. ventun libro, etc.』となつていゝる。さらに、Gabrielli, A. 「現代言語学辞典」1956、Verona も、このほかの多くの学者も、複数形が一般的で、単数形は避けるべきだとしている。

古くは、どうだったのであろうか？ラテン語では、例えば「21人」と云う時には、viginti unus homines と云つたのであるから、複数形(homines)を用いるのが伝統だったのである。(単数なら homo)。フランス語でも、eg. vingt et un chevaux「21頭の馬」の如く、複数形が用いられる。(単数なら cheval)。

だから、Gabrielli, A. も云つていゝるように、le mille e una notte「千一夜」は、今や決り文句になつていゝるが、本来なら le mille e un notti と、notte を複数形の notti にすべき所であらう。(上の例において、una notte と、un(o)が una になつていゝるのは、notte が女性名詞だからである)。

ただ、この単数の用法は、何時頃から現れたものか？また、何故現れたのか？(20人でなくて、21人と云う1人半端が居ると云う点が強調された時、単数が現れる、etc. が予測できる。)また、現代語でも使われていゝるとすれば、どんな場合にか？etc の問題が残されていゝる。

§4 おわりに

本稿では、数詞に関する2つの問題を取りあげたにすぎないが、問題点は探せばいくらでも出てくるものである。また、本稿では、問題点の記述に留まり、その解決に至らなかつたのは残念であるが、今後の努力によつては、それも可能であらう。

中高ドイツ語の数詞について

岡 崎 忠 弘

この小論の目的は数詞について問題点を探り出し、それを資料を駆使して論究を試みようとする事にはない。新高ドイツ語(nhd.)の数詞と違つて中高ドイツ語(mhd.)のそれはそ